

桐蔭高等学校

実施日時	令和2年12月9日(水) 13時10分～15時
参加者	生徒 (高1、高2)556名、(中学1、2、3年)240名、 教員 高校37名、中学9名 計842名
実施内容	避難所運営訓練(パーティション設営)、災害時の対応(「防災NAVIアプリ」)、救急法、ロープワーク、被災地出隊に係る講話、地震体験(「ごりよう君」)、マイトイレ&非常用スリッパ作り、アルファ米炊き出し

ねらい

- 1 地震・津波の発生時における、緊急避難に対応できる行動力を身に付ける。
- 2 避難場所である桐蔭高校に大勢の避難者が来校した際、本校の生徒及び職員・避難者が互いに協力し、安全かつ迅速に避難行動がとれる実践力を身に付ける。
- 3 中高生における防災学習・スクールを通して、自助・共助に関する理解を深める。

注 コロナ禍における防災スクールという点をふまえ、可能な限りメニューを増やし会場を分散させることで、過密を避けた実践活動を行った。

主なプログラム

- 1 避難所運営訓練(パーティション設営)
- 2 災害時の対応(「防災NAVIアプリ」)
地震体験(「ごりよう君」)
- 3 被災地出隊に係る講話、ロープワーク、救急法
- 4 マイトイレ&非常用スリッパ作り
- 5 アルファ米炊き出し
- 6 報告会(各ホームルームで)

概要

- 1 和歌山市危機管理局総合防災課の協力を得て実施。
体育館二階で、避難所での居住空間作りとしてパーティション設営、段ボールベッド設営などを実際に体験した。



2 和歌山県危機管理局防災企画課の協力を得て実施。県の防災方針、ポータルアプリ「防災 NAVI」や避難カードの効果的な活用方法についての講義を受けた。

地震体験車「ごりょう君」に各班代表 1 名、定員 2 名での震度 6 体験。揺れの強烈な恐ろしさを実体験した。



3 自衛隊和歌山地方協力本部の協力を得て実施。被災地での被害の状況や自衛隊の活動ぶりを通して「物心両面」での備えの大切さをひしひしと学んだ。

グラウンドにて、「もやい結び」「一重つなぎ」「命綱結び」といった、救出活動時のまさしく命を「繋ぐ」結び方を実践的に学んだ。

ダミーを用いた心肺蘇生法と、身の回りの物を用いた簡易担架の作り方・搬送の方法や留意点等を学び体験した。



4 教員の演示を受けて、新聞紙とペット用シートを用いる簡易トイレと、非常用スリッパを製作した。



5 アルファ米炊き出しでは、感染症対策を徹底すべく、ポリ手袋を装着した上にアルコール消毒をして作業にあたる。熱湯ではなくペットボトルの水を用いるため、早朝からの仕込みを経て本番での配食・配膳を行った。



「防災スクール」一覧表

令和2年12月9日(水) 5.6限(13:10~15:00)

	内容	担当	注意事項	会場	第1メニュー 13:10~13:45 (35分)	移動・休憩 (10分)	第2メニュー 13:55~14:30 (35分)	移動 (5分)	14:35~15:00 (25分)
1	・ロープワーク ・「地震体験車ごりよう君」	自衛隊	各班で、地震体験をする代表1名をあらかじめ決めておくこと。	グラウンド (雨天時 生徒ホール)	1班 (117名)	800名の大移動のため、移動ルートは指示に従うこと。	4班 (111名)	HR教室で 各班 3分ずつ 発表→共有	
2	・救急法	自衛隊		柔道場	2班 (116名)		5班 (116名)		
3	・被災地出隊に係る講話	自衛隊		剣道場	3班 (112名)		6班 (114名)		
4	・「防災NAVI」アプリ ・災害時の対応等についての講話	(県)防災企画課	・「防災ハンドブック」と携帯電話を、有れば持参すること。 ・会場の確認を、必ずしておくこと。	会議室	4班 (55名) (56名)		2班 (58名) (58名)		
	・「防災NAVI」アプリ ・災害時の対応等についての講話	(県)防災企画課		視聴覚室					
5	・避難所運営についての留意事項の説明 ・パーティションを用いた避難所設営	(市)危機管理局 総合防災課		体育館・西側	5班 (116名)		7班 (109名)		
6	・アルファ米炊き出し	本校	当日朝8時、各班代表者1名は体育館に集合。(非常食の種類を選び、下準備をする)	体育館・東側	6班 (114名)		1班 (117名)		
7	・マイトイレ ・非常用スリッパ	本校	会場の確認を、必ずしておくこと。	予備室 2-2	7班 (32名) (38名) (39名)	3班 (35名) (40名) (37名)			
	・マイトイレ ・非常用スリッパ	本校		予備室 2-3 W					
	・マイトイレ ・非常用スリッパ	本校		予備室 2-3 E					

- 6 体験後、各ホームルーム教室に戻り、参加した活動について簡潔にクラス全体に報告。各班が体験したメニューは二つしかないため、他の班の報告を聞くことで防災・減災の要点を全員で共有した。



成果と課題

【成果】

「コロナ禍においても災害は起きる」という点をふまえ、例年に比して内容的にもかつ時間的にも充実した防災スクールを実施した。ただし、過密を避けた実践活動が大前提であるため、自衛隊・和歌山県・和歌山市の各関係機関の協力を得て可能な限りメニューを増やし、会場を分散させる工夫を行った。そのため、全ての教員が担当につく規模の大きい学校行事となったが、生徒たちの反応は非常に良好であった。また、事前学習の時間をほとんど設けず当日の「体験」に臨んだが、災害時にも通ずるところの「的確な判断と迅速な行動」を合い言葉に、各人が主体的に行動できたことは大きな成果である。避難場所である本校で他の避難者と互いに協力し、安全かつ迅速に避難行動をとることの重要性を実感した上で、生徒一人ひとりが緊急避難に対応できる行動力を身に付ける一助となった。

【課題】

本年度のスタイルで毎年開催するためにはメニューのマイナーチェンジが求められるが、それに対応できるかどうかが課題である。よって、このスタイルは隔年開催とし、別内容の防災スクールも視野に入れる必要があるかもしれない。また、避難所運営という観点から、地域の方々との連携した活動も検討していきたい。